

## 九州電力による原子力防災対策への協力

2024年3月13日  
九州電力株式会社

- 1 はじめに
- 2 当社による原子力防災対策への協力
  - 2-1 輸送力に関する支援
  - 2-2 放射線防護対策施設への生活物資の備蓄支援
  - 2-3 避難退域時検査、緊急時モニタリングへの支援
  - 2-4 燃料補給の支援
  - 2-5 P A Z内の要支援者等に関する避難支援の実効性向上
  - 2-6 周辺住民の避難道路へのアクセス道路等の改善支援
- 3 おわりに

# 1 はじめに

原子力発電所の運営を行うにあたって最も大切なことは、地域の皆さまの安全を確保することと考えており、当社は原子力発電所の安全・安定運転に万全を期すとともに、更なる安全性向上対策に継続的に取り組んでおります。

一方で万一、原子力災害が発生した場合には、発電所周辺の住民の皆さまの避難について、原子力事業者として最大限の支援を行うこととしています。

原子力防災対策への協力につきましては、まず、川内地域原子力防災協議会での議論を経て2014年9月にとりまとめられた「川内地域の緊急時対応」に基づき、原子力事業者の役割とされた支援項目に取り組んでまいりました。

更に、2016年4月の熊本地震を受け、同年8月26日及び9月7日、鹿児島県知事のご要請をいただいたことから、川内原子力発電所の安全性に対する県民の皆さまの不安の軽減に向けた新たな取り組みとして、自治体の避難計画に対する支援体制の強化についても実施してまいりました。

本日は、当社のこれまでの原子力防災対策への協力について、ご説明させていただきます。

## 2-1 輸送力に関する支援

原子力災害が発生した場合、PAZ内(発電所から概ね5km圏内)やUPZ内(発電所から概ね5~30km圏内)に居住されている住民の皆さまは、国・自治体の指示により事象の進展や放射性物質の放出状況にあわせて避難することとなっています。このため、当社は、輸送力に関する支援として、以下の取組みを行いました。

○施設敷地緊急事態となった場合に、PAZ内にお住まいの要支援者の方が避難をする際に不足する輸送手段(福祉車両16台、バス7台)及び運転手を確保  
[2015年]

○UPZ内9市町に対し、福祉車両35台を譲渡[2018年]

### 【福祉車両】

- 配備・譲渡先は次ページのとおり
- 福祉施設等に配備している福祉車両(社有車)は、平常時には施設の運営に使用

### 【バス】

- 教育機関の避難のため、大型・中型バス7台を原子力災害時に当社が優先的に確保させていただく旨の覚書を地元のバス会社と締結
- 運転手はバス会社、補助者は当社から派遣

## 2-1 輸送力に関する支援

福祉車両の配備・譲渡先は以下のとおりです。

福祉車両(社有車)配備先[2015年]

配備先	台数
当社事業所	3台
薩摩川内市内福祉施設等(12箇所)	12台
いちき串木野市内福祉施設(1箇所)	1台
	16台

社有車については、当社規定に基づき更新(取替え)を実施します。



福祉車両  
(ストレッチャー仕様)



福祉車両  
(車椅子仕様)

福祉車両譲渡先[2018年]

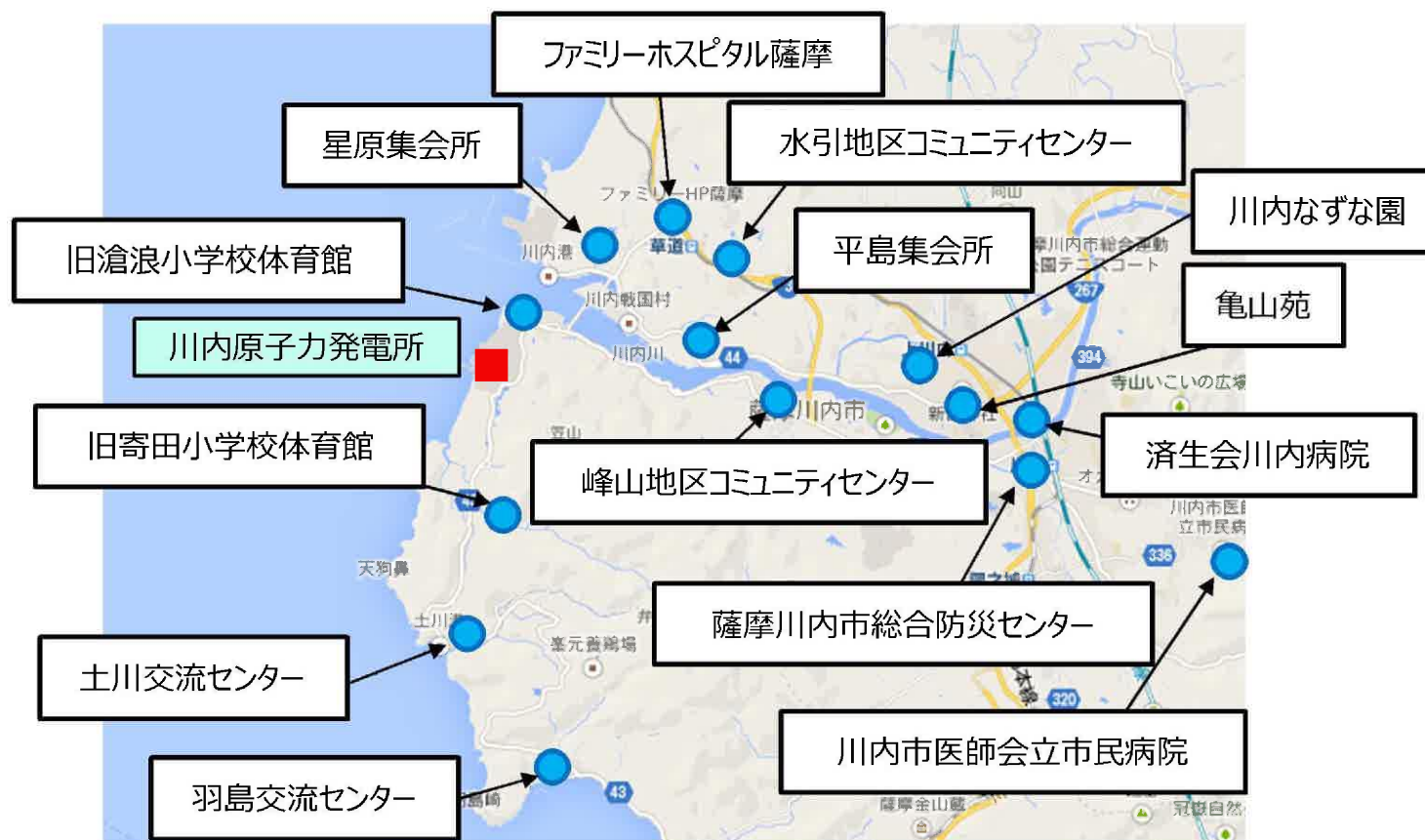
譲渡先	台数
薩摩川内市(市内福祉施設に直接配備)	12台
いちき串木野市	7台
阿久根市	5台
さつま町	2台
日置市	3台
出水市	2台
長島町	1台
鹿児島市(市内福祉施設に直接配備)	2台
始良市	1台
9市町	35台

自治体との間で締結した確認書において「車両を引渡した日から9年経過後に、当該車両の更新に関する協議を開始する」としています。

## 2-2 放射線防護対策施設への生活物資の備蓄支援

施設敷地緊急事態において、避難の実施により健康リスクが高まる方については、安全に避難が実施できる準備が整うまでの間、放射線防護対策施設で屋内退避することとなっています。このため、当社は、放射線防護対策施設への備蓄支援として、以下の取組みを行いました。

○放射線防護対策施設(14箇所)に食料品、電化製品(テレビ、ラジオ等)、雑貨(毛布等)を備蓄[2020年までに完了]



備蓄品を配備した放射線防護対策施設〔14施設〕



## 2-3 避難退域時検査、緊急時モニタリングへの支援

### 【避難退域時検査への支援】

UPZ内で空間放射線量率が高い区域の住民の皆さまが広域避難する際、避難退域時検査を実施し、車両や住民の皆さまの放射性物質の付着の確認と除染を行います。当社からも、900人程度の検査及び除染要員等の支援を行います。

なお、鹿児島県原子力防災訓練では、避難退域時検査・原子力災害医療措置訓練に当社も参加しています。



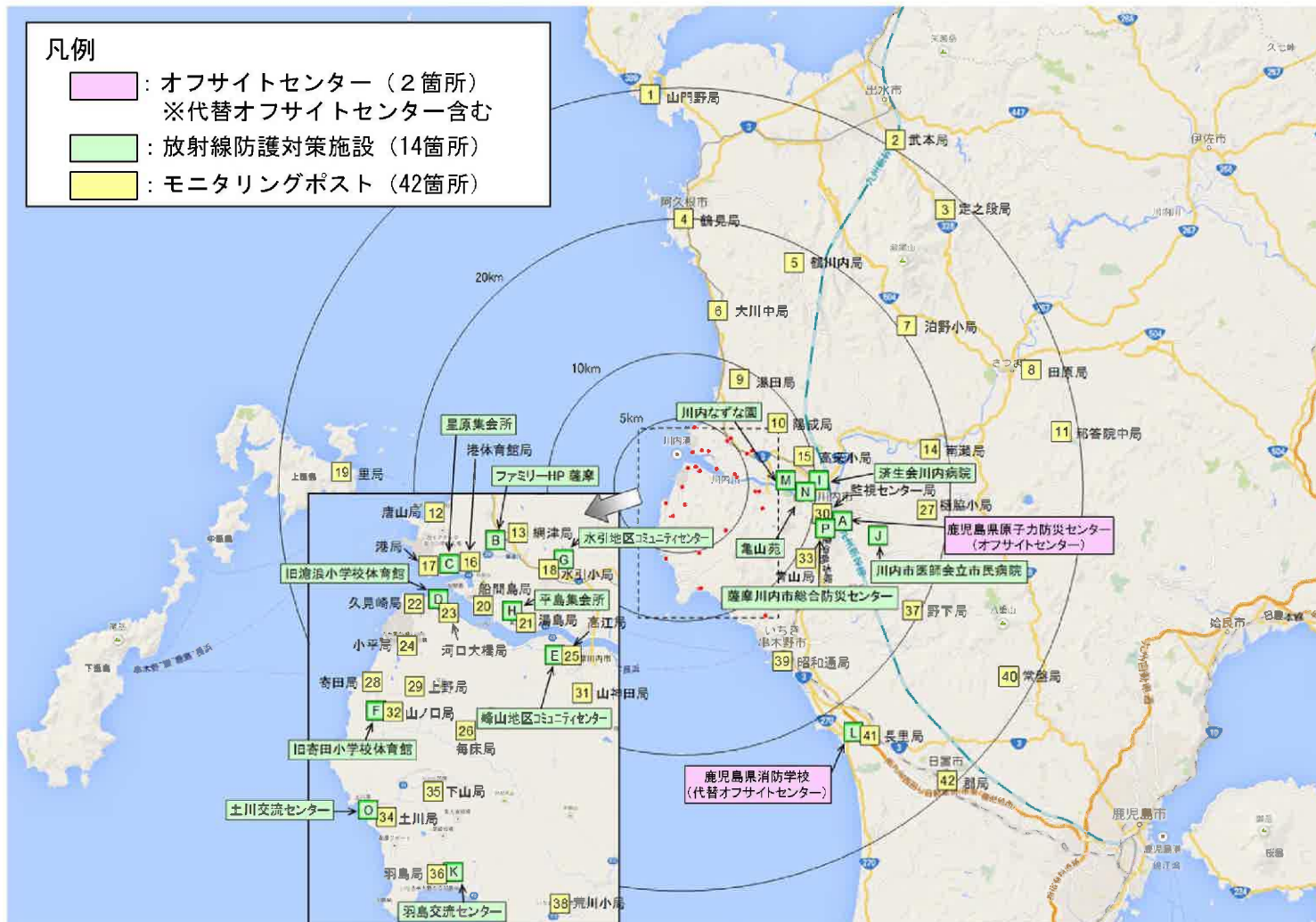
鹿児島県原子力防災訓練への参加状況[2024. 2. 10]

### 【緊急時モニタリングへの支援】

緊急時モニタリングが必要となった場合には、当社からも緊急時モニタリングの要員等の支援を行います。

## 2-4 燃料補給の支援

原子力災害時に、オフサイトセンター等の重要施設の電源について、配電線からの供給が見込めず、非常用発電機の燃料が尽きることが見込まれる場合に、鹿児島県からの要請に基づき、当社は燃料取引先を通して燃料補給を実施します。



燃料補給先〔58箇所〕



オフサイトセンター



放射線防護対策施設



モニタリングポスト



## 2-5 PAZ内の要支援者等に対する避難支援の実効性向上

PAZ内の要支援者等に対する避難支援の実効性向上のため、以下の取組みを行いました。

### ○社員の避難支援スキルの向上の取組み(研修、訓練等)

- ・ 専門家（理学療法士）による移動介助に関する研修、福祉車両の操作訓練を毎年度継続して実施

### ○PAZ内高齢者の避難集合場所までの避難支援

- ・ 山間部などにお住まいで、避難に不安をお持ちの高齢者の方々に対しては、自宅からバス避難集合場所までの避難支援について自治体と協議の上、対応体制を整備

### ○迂回道路の既設林道への直結

- ・ 2023年11月に供用を開始した新県道43号川内串木野線(迂回道路)については、より迅速で確実な避難ができるよう、既設の林道「寄田青山線」に直結



○ 迂回道路と寄田青山線の交差部分

## 2-6 周辺住民の避難道路へのアクセス道路等の改善支援

川内原子力発電所周辺の住民の皆さまが、より安全かつスムーズに避難できるよう、鹿児島県や薩摩川内市と協議し、お住まいの地区から避難道路につながるアクセス道路や避難集合場所について改善工事を支援しました。

○ P A Z 内 4 地区から市を通じ整備要請があった8箇所のアクセス道路の改善工事を支援[2018年までに完了]

実施項目	実施地区等
通行支障木の伐採	寄田地区:計1箇所
側溝への蓋の設置	寄田、水引地区:計3箇所
Uターン場所の確保	滄浪、寄田、峰山地区:計4箇所



スマコミライト

○ P A Z 内 4 地区内の「アクセス道路」や「避難集合場所」等に街路灯及びベンチを設置[2021年までに完了]

実施項目		滄浪	寄田	峰山	水引
アクセス道路	LED街路灯(灯)	12	17	-	71
	スマコミライト(基)	3	3	6	3
避難集合場所	スマコミライト(基)	1	2	6	7
	ベンチ(基)	2	4	5	6



ベンチ

スマコミライト：太陽光電池による独立電源型ソーラーLED灯

当社は、地域の自治体をはじめ、関係の皆さまのご要望をお聞きしながら、今後も地域の原子力防災対策に積極的に協力してまいります。